サステナビリティ教育研究センター 活動報告

1. タイトル

2023 年度けやき循環プロジェクト 枝の活用

2. ケヤキの枝について

学園のケヤキ並木の剪定作業で発生し、処分する予定であった枝の活用を検討し、随時実施している。

学園ではケヤキ並木の安全かつ適正な管理のため、構内のケヤキを5つのエリアに分けて、エリアを一巡する5年をⅠ期とし、Ⅱ期10年間にわたり、高く大きく生長したケヤキ（約25m）を現地の樹木間に適した樹高幅（20m前後）となるよう切り詰め剪定事業を進めている。

Ⅰ期（2018～2022年度）：切り詰め剪定（約25m→約18m）

Ⅱ期（2023～2027年度）：切り詰め剪定（約22m→約15m）

上記の切り詰め剪定事業にあたって、1年あたり約500kgの枝ごみが発生するが、その枝ごみを活用することで、処分費用の削減への貢献が見込める。

3. 活動内容

<武蔵野アール・ブリュット実行委員会との連携>

文学部の川村先生を中心に連携を行っている。

具体的には 2023 年 4 月、武蔵野アール・ブリュット実行委員会アドバイザーである三友周太氏が学園の木工所にてケヤキの枝を加工ができるよう準備をし、同じく文学部のラルフ先生の工作機械がある立川のスタジオにてさらに試作を行ったその後 11 月にサンプルとしてケヤキの枝をさらに回収した。2023 年 12 月 8 日～11 日に武蔵野市立吉祥寺美術館で開催された「武蔵野アール・ブリュット 2023」での展示やワークショップでの活用を検討したが、美術館の規定により展示室での木工作業が難しく見送りとなった。しかし、武蔵野アール・ブリュット実行委員会の中にはケヤキの枝を通じた学園とのコラボレーションを喜んでいる方が多く、今後の武蔵野アール・ブリュットのイベントや、関係者の作業所等での活用に向けて引き続き検討を行なっている。

<桜祭、欅祭等でのワークショップ参加の検討>

2024 年 3 月 31 日に開催される桜祭に、主に活動している職員 5 名がワークショップ形式で参加を予定している。で。ワークショップでは、学園内で不要になった毛糸・編糸の回収をよびかけ、集めたものを活用し、ケヤキの枝を十字にして糸を巻き付けていくクロスウィービングを作成する。当日の会場では、同時にけやき循環プロジェクトの案内やケヤキの剪定風景などの写真展示も行う。なお、桜祭当日は中高ユネスコスクール探究プロジェクトメンバー（後述参照）も参加を予定している。

<剪定枝のグッズ作成（中高ユネスコスクール探究プロジェクトとのコラボレーション）>

桜祭と同時に開催される成蹊 ESD フォーラム、および武蔵野クリーンセンターで開催されるエコマルシェでは、中高ユネスコスクール探究プロジェクト（※）のメンバーと一緒に考案し、剪定枝で作成したキーホルダーやコースターなどのグッズを参加者に配布するの予定でいる。

※中高ユネスコスクール探究プロジェクト

2021 年度よりスタートした中学校の特別研究グループ「ユネスコスクール」の活動を 2023 年度から中高一貫連携の活動として継続・発展させ、環境保全活動、国際交流、伝統文化の理解普及、他のユネスコスクールとの交流などに生徒が主体となって取り組むプロジェクト

4.　成果と課題

ケヤキ並木は学園関係者にとって何かしら思い入れがある場所であり、そのケヤキを手にすることで、人々の心に響くものがあるだろう。剪定作業によって発生した枝がごみとして回収されずに地域へ提供されたり、身近なグッズや工作の材料となったりすることで、ごみを減らすだけでなく、ケヤキを身近に感じ愛着を強めることができると考える。活用する枝の回収にあたっては、維持管理をしている方への感謝の気持ちも感じることができた。そして、枝を介した場で、学内（中高生、教職員）のつながりだけでなく、地域の方と、卒業生と、様々な交流を生み出す可能性がある。

現実的な課題としては、回収したケヤキの枝を保管する場所、工作やワークショップで使える状態にするための一次加工の道具や作業場所が十分でなく、探しているところである。また、教職員においては業務時間中の作業は難しく、時間が限られている中で、積極的に参加してくれるメンバーが増えてきていることはありがたい。今後はさらなる学内の人的、物的資源の活用を目指し活動を広げていきたい。

～活動の様子～

①

②

③

④

⑤

写真：

① 回収した毛糸・編糸

② ①とケヤキの枝で作ったクロスウィービング

③・⑤ 剪定枝

④ 剪定作業の様子